

続・ふるさと

戊辰戦争と芳賀町 〜結城藩の姫君、東水沼へ〜

第47回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028 (677) 2525

今から140年前の慶応4年1月3日、京都の鳥羽・伏見で戦いの火ぶたが切つて落とされた。戊辰戦争の勃発である。その背景には、前年の10月に15代将軍の徳川慶喜が行った大政奉還があった。政権を朝廷に返すということである。天皇を中心に雄藩の藩主たちが集まり、新しい政治を運営していく。これは当時の言葉で「公議政体論」といい、公議政体の中で慶喜は生き延びていくと考えた。時を同じくして、薩摩・長州に倒幕の密勅が下された。薩長から見たら、慶喜を新しい政権の一員に入れることは考えられなかったのだ。12月には王政復古の大号令が出された。さて、戊辰戦争と芳賀

町のかかわりは下総結城藩の内紛から始まる。新政府軍が3つに分かれて江戸に進軍、そのとき新政府軍はまず10万石以上の藩に向かって「京都に来て、天皇に対して忠誠を示せ」と命令を出した。しかし、ほとんどの藩が殿様を病気にして不参加とした。結城藩は、最後の最後まで悩む。その結果、藩は旧幕府派と恭順派に分裂する。旧幕府派は、藩主水野勝知。この人は二本松藩からの養子。これに対して、前々の藩主水野勝進と子どももの勝寛は恭順派である。恭順派は藩主勝知の廃止を決議し、その旨を願い出ると、藩主側は旧幕臣を結集した彰義隊などを引き連れて3月25日、結城藩を攻撃し占拠した。

この時に恭順派のほうにお姫様がいたので、大変だということ、大沼の岡田家に避難させた。3月27日、真岡の大沼村に逗留し、29日東水沼に到着、岡田八兵衛家に一泊する。岡田家では「お姫様が来ることは大変なことである。一生懸命対応したが、つましやかな態度に深い同情を寄せている」とその時の記録をつづっている。その後、占拠した藩主勝知から関係者に帰城の指示が出された。そのためか、30日にお姫様は鶴山河岸から船で帰って行ったと書かれている。その一方で、岡田家にもいろいろ大変なことがあった。芳賀町でも世直し一揆が起きる直前であった。

編集後記

□前日までの冷たい雨も上がり、好天に恵まれた今年の成人式。芳賀町の新成人の皆さんは、とても大人で感心しました。□テレビやマスコミでは「荒れた成人式」をクローズアップしたが、実際はいいのですが、さすがに皆さんの本当の気持ちを、ダイレクトに伝えて欲しいものです。

■私の成人式、前日に東京から戻り、普段着で出席するつもりだった私に「きちんとした服で」と困った親の顔。どうにか体裁だけは整えて？出席した思い出があります。ちょうど20年前、寒い朝だった…。同級生はみんな元気なんでしょうか？2回目の成人式、そろそろ同級会かな。
(ネタ)



L=40cm
Larus ridibundus
(黒い首のカモメ類)

カモメ類は、海洋や入り江でしか見られないが、このユリカモメは、冬になると内陸の河川に数十羽の群れで入り込むので、初めて町内で観察したときには驚いた。

体全体が白く、背中と翼上面が淡い青灰色で先端は黒く、脚とクチバシは赤褐色である。白い顔面の目のすぐ後方に黒いシミ模様の点があるが、個体によってはあまり目立たない。夏羽に変わると、この黒いシミ模様が顔全体広がり、黒坊主のようである。

小型カモメの基本種であり、京都の鴨川や東京湾岸、隅田川沿いなどでは、多くの人に「みやこどり」と呼ばれ親しまれている。

東京湾岸のレインボーブリッジを通過する無人運転のモノレールの名称は、この「ゆりかもめ」と名付けられている。

■編集 芳賀町広報聴覚委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
①芳賀町の携帯サイトはコチラから➔

